

広報

あかいけ

1



初春
2006

議会 Assembly

迎春

赤池町議会議員一同

- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長 | 兼 | 善 | 治 | 廣 | 市 | 司 | 夫 | 一 | 文 | 史 | 工 | 義 | 夫 | 義 | 一 | 進 |
| 副 | 議 | 田 | 幸 | 義 | 三 | 高 | 久 | 正 | 照 | 正 | カ | 信 | 勇 | 春 | 榮 | |
| 池 | 木 | 立 | 白 | 皆 | 田 | 中 | 野 | 松 | 村 | 野 | サ | 富 | 島 | 松 | 永 | 高 |
| 田 | 今 | 小 | 木 | 奥 | 久 | 大 | 小 | 安 | 日 | | | | | | | |

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。さて、地方自治体を取り巻く情勢は大変厳しい状況にあります。平成十二年施行の地方分権一括法により、地方には自立・自助と責任が伴う行政が求められています。また政府は「官から民へ」「小さな政府」をめざした「三位一体改革」(国庫支出金の廃止・削減、税源移譲、地方交付税の見直し)を進め、現在、財源配分の議論が行われているところです。しかし、田川地区の自治体は自主財源に



ハードからソフト、依存から自立へ

乏しく、自立にはほど遠い実態にあると言えます。従来の補助金や起債(借金)に依存した財政運営では限界があり、国に頼る依存意識から脱却した自立への転換と、施策・意識の双方の改革を進める必要があります。今年、三月六日に「福智町」がスタートしますが、決して財政状況が好転する状態ではありません。今後、自治体間競争が激化するなかで、限られた財源を生かし、住民サービスを低下させないよう、効率化とスリム化を図りながら「特色ある町づくり」をいかに進めるかが、いま問われています。未来ある若者に、借金の付けを回すことは許されません。まちの自立は人づくりが基本です。時代はハードからソフトへ。皆様のご協力とご理解をお願いし、ご多幸を祈念して、私のごあいさつといたします。

赤池町議会議長

片岡文雄

行政 Administration

希望にあふれる明日に向かって



新年、明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。昨年中は、公私にわたって大変お世話になり、本当にありがとうございました。おかげさまで、町長就任初年次を何とか終えることができました。重ねて感謝申し上げます。また、町政に対する信頼の回復に全力を尽くすという「初心」をいつも自分に言い聞かせながら、日々の職務に努めて参りましたが、皆様からご覧になって、いかがでしょうか。率直なご意見等いただけたらと思っております。ところで、赤池町は、今年三月六日に六十六年余の歴史を閉じ、金田町・方城町と合併して福智町に生まれ変わります。ここ数年「平成の大合併」と呼ばれて、次々に新しい自治体が誕生していますが、田川地区では初めてのケースとなり、耳目を集めていると思っております。しかし、合併することが最終目的ではなく、合併を通して、どうすれば旧三町の時よりも豊かさを感じ

てもらえるような「まちづくり」が実現できるのかということに、目標を定めていかなければならないと思っております。昨年秋に刊行されたある本に「世の中にはおカネでは量れない、つまり市場原理に乗らないもので人間の幸せに重要なものがたくさんある。そういうものを大切にする所に、本当の意味での豊かさがある」という件がありました。新生福智町にとって示唆に富んだ表現だと思ひ、抜粋してみました。まさにそうした豊かさを住民の方々に感じ取ってもらえるような地域の創造こそ、私達に課せられた責務だと改めて肝に銘じているところです。かつて「時は流れない、それは積み重なる」という文句を宣伝に使用した会社がありましたが、私達の新たなふるさと「福智町」も三月六日の誕生から時を重ね、すばらしい伝統と他に誇れる風土を築き上げていかなければならないと思っております。いずれにいたしましても、三町合併という記念すべき「出来ごと」に立ち会える喜びをかみしめながら、希望にあふれた明日に向かって力強く歩を進めていきたいと思ひます。最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

赤池町長

浦田弘二

特区とは

構造改革特区は、構造改革特別区域法に基づいて、地方自治体や民間事業者の自発的な立案によって、経済・教育・農業・社会福祉などの分野における地域特性に応じた規制の特例を導入する特定区域を設け、地域の活性化を図りながら構造改革を進めていこうという国の制度です。

INTERVIEW 1 教育長

「教育と文化の町 赤池」特区は、少人数学級によるきめ細かい指導を行うことで基礎学力を養い、さらに、一人ひとりの学力を最大限に伸ばすことを目的としています。子どもたちは基礎の段階でつまずくとそのまま不得意科目として引きずってしまいます。基礎学力がつけば勉強も面白くなり、学習習慣が身に付きます。個々の学力を確立して全体の学力をかさ上げするために、基礎・基本を完全にマスターできる授業を行い、子どもたちの学ぶ楽しさをはぐくみながら、やる気を引き出していきたいと考えています。また、合併後の福智町における協議では、このまま特区継続の方向で了解を得ており、現在、具体的な調整を行っているところです。教育特区に対する皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

きめ細かな指導でやる気を引き出す

赤池町教育委員会
徳久 公博 教育長

今回の、赤池町が認可を受けた教育特区の最終目的は「一人づくりの町」。そのねらいは「この町でわが子に教育を受けさせたい」「子育てをするならこの町で」と思われるような教育の充実を図ることにあります。「教育と文化の町 赤池」特区はそのための大きな手段であり、原動力となるものです。

テーマは人づくりです

学校教育のベースはあくまでも授業です。わかる授業、面白い授業でなければ、学力も学ぶ楽しさも得ることはできません。逆を言えば、わからない授業だと学力が低下するのはもちろんのこと、学校にも行きたくなくなり、不登校や非行につながることもあります。学力を伸ばすには時間がかかりますが、落ちてしまうのはアツという間。集団行動に不慣れな年代では、わずか数か月で学級が崩壊

3学期から少人数授業導入

現行の制度で常勤教員を採用できるのは都道府県と政令市だけ、福岡県で言えば県と福岡市、北九州市のみで許されています。その場合、1学級の児童生徒数40人に対して教員1人が基準。1学年の子どもが80人だと1クラス40人の2学級編成になります。

そこで、20人学級の実現を目指す赤池町は、小中学校の教員を町が独自で採用できるように今年10月に国の構造改革特区を申請。12月6日に内閣府から正式に認可されました。これを受けて町は、12月定例町議会に327万円

の給与を一般会計に盛り込む補正予算を提案し、常勤講師4人を採用する予定。議会の議決を経て、年明けの3学期から市場小学校に3人、赤池中学校に1人の教員を配置します。本年度は準備段階としてクラス編成は行わずに、まず少人数授業を導入する方針です。その後、3年をかけて常勤講師を徐々に増やし、平成20年度には市場小学校に7人、赤池中学校に6人の教員を増やす計画です。このことによって、市場小の全学級と赤池中1年の学級を1クラス24人以下に抑えることができます。全校児童120人の上野小は、すでに20人学級となっているので、両小学校のすべての学級で20人学級が実現することになります。町内3校が連携して、少人数の授業できめ細かな指導を行い、基礎学力を定着させ、能力に応じた習熟度別授業で、すべての子どもたちの学力の向上を目指していきます。

※ 通常、20人学級とは、1クラス24人以下の学級のことを言います。赤池町の特区でいう20人授業は、1クラス20人台か、それ以下の人数であるとお考えください。

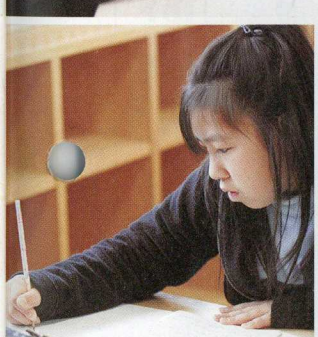
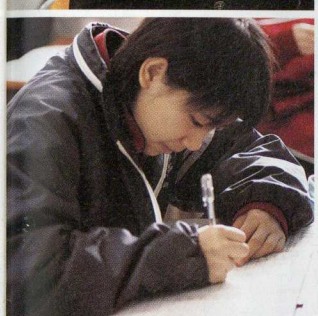


教育特区

特定の地域に限って規制緩和を認め地域の活性化を図る構造改革特区一。町はこの制度を生かした「教育を柱とする人づくり」を進めるため「教育と文化の町赤池」の特区計画を申請、11月22日に政府認定を受けました。この規制緩和によって、学校教員を町独自で採用することができるようになります。少人数学級制を導入し、基礎学力をしっかりと身につけ「わかる授業」を目指す取り組みをご紹介します。



12月6日に首相官邸で行われた構造改革特区の認定書授与式、後列左から2目が浦田弘二町長。



20人学級、20人授業、習熟度別授業で… 学ぶ楽しさ、育みます。

